

## 小学校第5学年 道徳学習指導案

1 主題名 広い心をもって【内容項目B-(11)相互理解, 寛容】

2 資料名 「銀のしょく台」(私たちの道徳)

### 3 主題設定の理由

○ねらいとする価値について

本学級の児童は、「自然体験教室」や学級での様々な活動に参加する際、自分の考えをしっかりともち、それらを互いに伝え合いながら活動を進めることができている。相手の意見が自分の考えとは違っていても、臆せず伝えようと努力したり、最初から批判せず、いいところを取り入れてより良い活動にしようと心掛けたりする児童も増えている。

互いの違いに気付きながらも、それを受け入れながらより良い生活へつなげようと行動し始めているこの時期だからこそ、本学級の児童に、自分に対して謙虚になるとともに、他人に対して寛容な心で接しようとする心を育てたい。

○児童の実態について

広がりや深まりのある人間関係を築くためには、謙虚な心と広い心が大切である。自分も過ちを犯す存在であることを自覚し、自分を謙虚に見て、他人の過ちを許す態度や相手から学ぶような広い心をもつことで寛容な心をもつことができ、周囲の人とのより良い関わりをもつことができるようになる。

この時期の児童は、互いのものの見方や考え方の違いをこれまで以上に意識するようになる。また、自分の意見にこだわり、その違いを受け入れられず、ぶつかったり、相手を避けたりするなどして人間関係を広げられなくなってしまう時期でもある。

そこで、この時期に、自分と異なった立場や相手の過ちを広い心で受け止めようとする心情を育てることは大切であると考えている。

○教材について

本教材は、困っているところを助けたジャンに自分の食器を盗まれたミリエル司教が、それを責めるのではなく、「それはあなたにあげたもの。」とうそをついて助けた上に、ジャンに正直な人間になってほしいと大切な銀のしょく台まで手渡すという話である。子どもたちは、自分の意見や立場を大切にするあまり、相手の思いや立場を受け入れることが難しく、それが原因で人とぶつかることがある。それゆえ、ミリエル司教のすばらしさを知るとともに、より良い人間関係を作るのに相手のことを考えて行動することのよさや大切さに気付かせるのに適した資料であると考えている。

○指導について

導入では、ミリエル司教について感じたことを発表させる。児童の意見から、自分の大切な物を盗んだ相手を許した司教について子どもたちの思いを伝え合わせる。

展開前段では、もし自分がミリエル司教の立場だったらジャンを許すことができたのか考えさせる。子どもたちの意見からミリエル司教の行動の難しさに気付かせる。その後、「しょく台はジャンにあげたものだ。」と言った時の司教の思いを考えさせることで、しょく台を盗まれたことを責めるのではなく、ジャンの立場や気持ちを考えて許すことを決めたミリエル司教の思いを感じ取らせる。展開後段では、ミリエル司教の心のよさを考えさせ、相手の失敗や行動だけにとらわれるのではなく、その立場や思いを理解することのよさに気付かせる。

終末では、気付いたよさをもとに自分にもできることを考えさせる。また、その後のジャンについて伝えることで、ミリエル司教の思いがジャンに届いたことを知らせるとともに、そのような思いがよりよい人間関係を作るために大切な心であることに気付かせたい。

### 4 ねらい

ミリエル司教の行いについて話し合う活動を通して、自分を犠牲にしてまでも相手を許すことの難しさやすばらしさに気づき、友だちの過ちや失敗を広い心で受け止めようとする心情を育てる。

5 展開

	学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導上の留意点
導 入 / 展 開	1 資料を読んだ感想を伝え合う。	○「銀のしょく台」を読んで、感じたことを発表しましょう。 ・自分の大切な物をあげた司教はすごく優しい人だと思う。 ・すごい人。自分だったら許せない。	・資料を読ませる前にミリエル司教やジャンについての説明を行い、話の内容をつかませやすくする。 ・初めて会った人、それも困っているところを助けてあげたにもかかわらず自分の大切な物を盗んだ相手を許した司教をどう思うかたずねる。 ・自分だったらどうするのか考えさせ、ネームプレートを黒板に貼らせる。また、それぞれの理由を発表させる。
	2 自分が司教の立場だったら相手を許せるか考える。 <b>【書く活動①】</b>	○あなただったら、自分の大事な物を盗んだ相手を許せますか。 <b>【許せる】</b> ・相手にも盗む理由があると思うから。 ・相手が反省しているはずだから。 <b>【許せない】</b> ・自分の大事な物を盗んだから。 ・親切にしたのに、ひどいことをしたから。	・ネームプレートの置かれた場所や児童の発言から、自分の大切な物を盗んだ相手を許すことがとても難しいことに気付かせる。また、それはミリエル司教にとっても同じであることにも気付かせる。
	3 ジャンを許したミリエル司教の気持ちを考える。	○ミリエル司教は、どんなことを考えながら、ジャンに対して「この銀のしょく台もあなたにあげたのに…」と言ったと思いますか。 ・これでジャンが捕まらなくてすむ。(①) ・家族の所に帰ってほしい。(②) ・これを売って食べ物を買ってほしい。(②) ・これからは二度と悪いことをしないでほしい。(③) ・正直な人になってほしい。(③)	・児童の意見をいくつかに集約しながら黒板にまとめていく。 <b>【集約例】</b> ① ジャンが捕まらないように。 ② ジャンの生活が心配。 ③ ジャンに正しい人生を送ってほしい。 ・児童の意見の中でどの意見が一番ミリエル司教の心の中にあっただのか考えさせ、今のことだけではなく、ジャンの人生をしっかりと考えた上で言葉であったことに気付かせる。
	4 ミリエル司教の心のよさに気付く。 <b>【話し合い】</b>	◎ミリエル司教の姿から、どんな心が大切だと感じましたか。 ・相手の失敗を許す心。 ・相手の立場に立って考える心。 ・相手のことを自分のことのように考える心。	・ミリエル司教の心のよさを考えさせることで、相手の失敗や行動だけにとらわれるのではなく、その立場や思いを考え、理解することのよさに気付かせる。 ・最初にワークシートに自分の考えを書かせる。その後、グループでワークシートに書いたことを伝え合わせ、考えを交流させる。さらに、全体の場で、子供たちの様々な思いや考えを発表させる。

／ 終	5 本時の学習から感じたことを基に、これからの自分について考える。 【書く活動②】	○今日の学習を振り返って、考えたことや感じたことを書きましょう。	・事前アンケートの結果から、実際の生活の中でも友達の失敗を許せなかったことがある児童がいることを伝え、本時の学習で考えたことや感じたことを基に自分にもできることを考えさせ、今後の生活につなげさせる。
末	6 ジャンのその後について知る。	○ミリエル司教の思いは、ジャンの心に届いたと思いますか。	・ミリエル司教と別れた後、ジャンもまた貧しい人を助ける人になったこと、その結果多くの人に慕われて市長になったこと、自分の身代わりにされそうな人を全てをなげうって助けたことを伝え、ミリエル司教の思いを受け、ジャンが正直な人間になったことを知らせる。